2025年度　上期

2026年　4月　24日

みやぎ生協　福祉活動助成金　助成活動報告書

団体名	特定非営利活動法人　音楽のチカラ
代表者名	
連絡先 TEL：070-9150-3220 FAX：	E-mail: ongakuno.chikara@music-power.org

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	障がいや病気、年齢を問わずすべての人へ生の音楽を届ける地域福祉音楽会事業
事業の目的	障がいや病気、加齢などさまざまな理由により、コンサートホールなどへ足を運ぶことが難しい方々に対し、生の音楽に触れる機会を届けることを目的として本事業を実施しました。 医療機関や福祉施設、特別支援学校、子ども関連施設などを訪問し、利用者や子どもたちが安心して音楽を楽しめる環境の中で演奏会を行うことで、心の安らぎや喜びを感じてもらうことを目指しました。 また、地域で活動する音楽家が社会の中でその力を生かし、音楽を通して人と人がつながる機会をつくることも本事業の重要な目的です。音楽を「届ける」活動を通じて、地域福祉の向上と文化芸術活動の広がりに寄与することを目指しました。
事業の具体的内容	本事業では、福祉施設、保育施設、特別支援学校などを訪問し、生の音楽を届ける演奏会を実施しました。各演奏会の実施内容および概要については、別紙１（演奏会実施一覧）のとおりです。

活動の開始から完了までの流れ	本事業は、訪問演奏を通して福祉施設や教育機関に生の音楽を届けることを目的として計画し、以下の流れで実施しました。 **1.　準備・調整期（2025年7月～8月）** 各施設との打ち合わせを先行して行い、対象となる利用者や生徒の特性（障がいの状況、年齢層、車椅子の有無等）を詳細に把握しました。それに基づき、出演演奏家とプログラムの検討を重ね、施設ごとのニーズに合わせた独自の演奏内容を決定しました。あわせて、機材の点検や運搬ルートの確認など、安全な実施に向けた準備を整えました。 **2.　実施期（2025年9月～2026年3月）** 計８会場において訪問演奏を実施しました。 ９月：ナーシングホーム穂乃果 10月：六郷ぱれっと保育園 11月：インクルーシブフェスタ in 多賀城 川前ぱれっと保育園 シンフォニー松森（同日２回公演） つどいの家アプリ みやぎこどもホスピス ３月：仙台市立鶴ケ谷特別支援学校 ※各会場では、最前列での鑑賞スペースの確保や、演奏家が客席を回る演出など、参加者が「安心して、かつ主体的に」音楽を楽しめる環境づくりを徹底しました。 **３．振り返り・完了期（2026年３月）** 各演奏会の終了後、施設職員の方々からの聞き取りやアンケート結果を通して活動の振り返りを行いました。また、演奏家間での事後評価会議を行い、次回の活動へ向けた課題の整理を行いました。本事業は、地域社会の多様なニーズに応える音楽活動として、2026年３月の演奏会をもって全行程を滞りなく完了しました。

活動の成果と教訓	本事業を通して、福祉施設や保育施設、医療・福祉機関、特別支援学校など、多様な現場へ生の音楽を届けることができました。多くの会場で、参加者が笑顔で手拍子を送り、時には涙を流しながら耳を傾ける姿に接し、音楽が人の心に深く届き、癒やす力を改めて実感しました。 重い障がいや病気、加齢などの理由で外出が困難な方々にとって、訪問演奏は単なる娯楽ではなく、社会や文化とつながる貴重な「窓」となります。演奏会で「静かに聴かなくてもよい」というルールを掲げ、一人ひとりの反応を肯定する環境をつくったことで、参加者が安心して自己を表現できる場を創出できたことは大きな成果です。 一方で、運営面では課題もありました。特に感染症の流行により、予定していた演奏会が中止を余儀なくされるといった予期せぬ困難にも直面しました。 繊細な配慮が必要な施設を訪問するからこそ、安全確保と実施の判断には細心の注意が必要であることを痛感しました。 しかし、そのような状況下でも、演奏後には多くの施設から「ぜひまた来てほしい」という切実な声をいただきました。生の音楽を待ち望んでいる方々が地域にはまだたくさんいらっしゃいます。 このような活動を継続するためには、プロの演奏家への謝礼や機材運搬費などの安定した資金確保が不可欠です。今回の事業は、みやぎ生協福祉活動助成金の支援があったからこそ実現できました。助成制度が地域福祉と文化芸術を結びつける極めて重要な役割を果たしていることを改めて実感しています。本事業で得た経験を糧に、今後も多くの方々からの応援を力に変え、音楽を必要としている場所へ「チカラ」を届け続けていきたいと考えています。

今後の展望など	本事業を通じて、計 8 箇所での訪問演奏を実現し、計 200 名を超える方々に生の音楽を届けることができました。活動を通して得られた最大の収穫は、音楽が身体的な制約や心の壁を超え、一瞬でその場を豊かに変える力を持っていると再確認できたことです。 今後は、この成果を一時的なものに終わらせず、以下の 3 点を軸に活動をさらに発展させていきたいと考えています。 **1．地域ネットワークの拡大と継続的な訪問** 今回の活動をきっかけに、実施施設からの再演依頼や、同席していた職員の方を通じて別の特別支援学校から新たな演奏依頼をいただくなど、具体的な広がりが生まれています。これらの繋がりを大切にし、単発のイベントではなく、地域に根ざした「継続的な訪問プログラム」としての確立を目指します。 **2．多様なニーズに応える演奏ノウハウの蓄積** 感染症対策の徹底や、重度障がいのある方、遺族の方々へのグリーフケアなど、デリケートな配慮が必要な現場での経験をマニュアル化し、団体の専門性をさらに高めてまいります。どのような状況下でも安全に、かつ質の高い音楽を届けられる体制を強化します。 **3．活動を支えるサポーターの育成と発信** 訪問演奏を待ち望んでいる方々はまだ大勢いらっしゃいます。この活動を安定して継続していくためには、助成金に加え、地域の方々や企業からの理解と応援が不可欠です。今回の助成事業で得た感動的なエピソードや成果を積極的に発信し、音楽による福祉活動に共鳴してくれるサポーターの輪を広げていく努力を続けてまいります。 「生の音楽を、すべての人へ」。この理念を胸に、これからも音楽のチカラを信じ、地域福祉の向上に寄与する活動を力強く展開していく決意です。

2、助成金使途報告書

■　収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	343,000	
自己資金	62,529	
寄付金・協賛金	0	
合計	405,529	

■　支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
出演者謝礼	支払明細書のとおり	300,000	351,000
演奏運営費用	音響設備展開・事前打ち合わせ・報告業務等	100,000	0
スタジオレンタル代（会場使用料）	支払明細書のとおり	18,000	
荷造り運搬費		25,0000	36,000
旅　費	支払明細書のとおり	0	15,919
広告・写真費		25,000	
消耗品費		30,000	
会議費		40,000	
手数料		3,500	2,610
合　計		541,500	405,529

※本事業の実施にあたっては、音響設備の展開、営業活動、関係各所との交渉・調整、当日の進行管理、交通費等を含む運営経費として、本来約18万円程度の費用が発生しております。しかしながら、当該費用については予算上の制約により計上せず、自己負担にて対応いたしました。なお、本件については正式な支出としての計上は行っておりませんが、今後の事業継続および適正な予算設計の参考として、ここに補足として記載いたします。

別　紙

事業の具体的内容（活動実績詳細）

第１回 ナーシングホーム穂乃果（2025 年 9 月 16 日）

1. 実施の記録
   - **参加人数：** 合計 32 名（施設利用者 21 名、職員 11 名）
   - **出演者：** 名雪祥代（サックス）、幹（ボーカル）、島末幸子（ピアノ）
   - **プログラムの工夫：** 昭和歌謡や童謡など、利用者の皆様が若かりし頃を思い起こすような選曲を軸に構成しました 。単なる娯楽提供に留めず、プロ奏者同士が事前に綿密な打合せを重ねることで、音響設備の整わない施設内であっても「音楽的完成度の高い本物の生演奏」を届けることに一切の妥協を排して臨みました 。
2. 現場で生まれた変化と成果
   - **「心の壁」を溶かす生の音：** 普段は感情を表に出すことが少ない利用者の方が、サックスの響きや歌声に触れた瞬間、表情が和らぎ、静かに涙を流される場面がありました。これは、スピーカー越しではない「生の音」の振動が、心の深層に直接届いた証左であり、本事業が目指す「心のケア 」が具現化した瞬間でした。
   - **日常生活への活力と社会との繋がり：** 演奏後には「また明日から頑張れる」「次はいつ来てくれるの？」といった、未来への期待を込めた言葉を多くいただきました 。外出や鑑賞の機会が限られる高齢者にとって、この１時間は単なるイベントではなく、社会や文化と再び繋がるための「窓」としての役割を果たしました 。
   - **施設との強固な信頼関係：** 職員の方々からも「利用者のあんなに輝いた笑顔は久しぶりだ」との高い評価をいただき、即座に次回の再演依頼に繋がりました。本助成金によりプロの質を担保できたことが、地域福祉施設との継続的な協力体制を築く決定打となりました 。
3. 自己評価

   本公演は、申請時に掲げた「奏でる人・聴く人・支える人が関わり合う循環 」の理想的なスタートとなりました。ボランティアではなく、助成金を活用してプロの技術を適切に確保したからこそ 、利用者の QOL（生活の質）を劇的に高める「本物」の体験を提供できたと確信しています。

※個人情報およびプライバシー保護の観点から、観客の写真掲載は控えております。

【演奏記録】六郷ぱれっと保育園様









【演奏記録】インクルーシブフェスタin多賀城





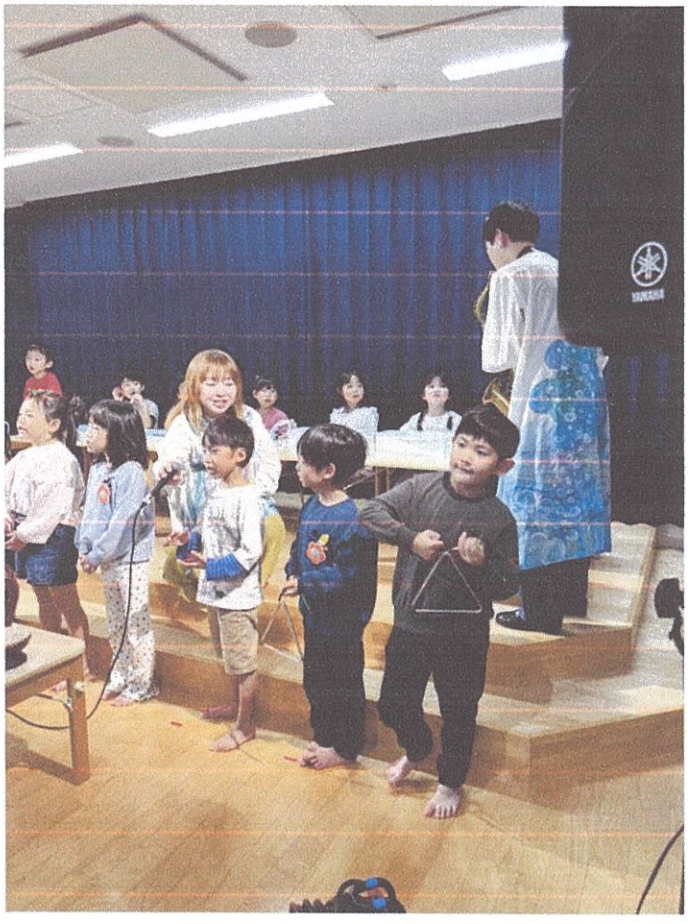




【演奏記録】川前ぱれっと保育園









【演奏記録】シンフォニー松森







